

1640 | 美術教育法Ⅰ

2 単位（通信授業 2 単位）

三澤一実教授

授業の概要と目標

造形美術教育の実践者として身に付けるべき知識や経験、資質は、広範囲であり多種多様である。また、それらの基礎として子ども達の造形活動をさまざまな視点から観察する姿勢と、子ども達の作品の中にある優れた造形性や教育的意義を発見できる視点を持つことがまず重要である。子どものどこにどのような光を当てればよいのか、そこからどのような教育的な展望を持つことができるのかという問題は、造形美術教育の入門でもあり、永遠のテーマでもある。ここでは、現在の具体的な実践事例を含む造形美術教育の諸相を概括し、その基本理念の考察へと学習を進め、造形美術教育者としての視点育成を目的とする。

課題の概要

○通信授業課題 1

身近な幼児・児童（3歳～10歳）の年齢の違う描画作品2点を取り上げ、造形美術教育の視点から解説すること。実際にその子どもが描いているところを観察するほうが望ましいが、雑誌や各種教科書などに掲載されているものでもよい。作品のコピーを添付し、子どもの年齢や性別、作品の出典などを明示すること。

○通信授業課題 2

昨今の初等教育における教育問題をひとつ取り上げ、ハーバード・リードの教育理念や造形表現における発達段階、小学校学習指導要領などと対比し、造形美術教育の視点から論評すること。

新聞、雑誌、WEBサイトなどを閲覧し、注目すべき教育問題を取り上げること。その情報の出典を明示すること。

*課題については学習指導書を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

教科書『美術教育資料研究』第Ⅰ章と第Ⅱ章、同じく教科書『美術教育の題材開発』第Ⅰ章を中心として学習するとともに、教育問題についての情報を集め考察し、造形美術教育者としての視点を育成する。

- ・『美術教育資料研究』第Ⅰ章 美術教育法の目的と意義
- ・『美術教育資料研究』第Ⅱ章 子どもの造形表現
- ・『美術教育の題材開発』第Ⅰ章 美術科の特徴と今日的課題
- ・『小学校学習指導要領解説 図画工作編』／図画工作科の考え方についての理解
- ・『中学校学習指導要領解説 美術編』／美術科の考え方についての理解
- ・情報収集／新聞、雑誌、WEBサイトなどを閲覧し、昨今の教育問題についての見識を広める

成績評価の方法

◎科目試験

上記授業内容から出題する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 教職課程（中学、高校1種 [美術]）に登録していること。

[備考] なし

教材等

教科書：大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

三澤一実監修『美術教育の題材開発』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（出版社未定 2017年）※

文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（出版社未定 2017年）※

※webからのプリントアウトも可

※指導要領解説は、刊行され次第配付する。

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成30年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

その他

参考図書：ハーバード・リード『芸術による教育』（フィルムアート社 2001年）

大坪圭輔、三澤一実編『美術教育の動向』（武蔵野美術大学出版局 2009年）

1650 | 美術教育法Ⅱ

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

大坪圭輔教授、山口正己講師、松本敏裕講師

授業の概要と目標

造形美術教育は子どもの成長の様相を基に行われる。特に「美術教育法Ⅰ」で学んだ造形表現における子どもの発達については、造形美術教育実践者の基礎的な知識として重要である。ここではそのような発達に対応した指導の実践事例として、チゼックスクールと自由画教育運動を取り上げる。また、中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領の内容について学習し、それらの考え方と比較検討する。これらの学習を通して、中等教育段階での造形美術教育の構造を明らかにし、中でも学習指導要領が重視する鑑賞領域の指導を模擬授業の形で実施し、実践的に学習することを目的とする。

課題の概要

○ 通信授業課題 ※面接授業で提出

「『美術教育資料研究』第Ⅲ章第 4 節に掲載のチゼック問答集を読み、現在の造形美術教科と比較考察し論述すること。」

面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。

大学指定のレポート用紙を用い返信可能な状態で持参、提出すること。

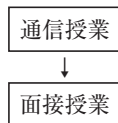
○ 面接授業課題

「中学校および高等学校における鑑賞題材を設定し、研究発表を行うこと。」

講義の中で鑑賞題材の研究発表を行い、相互に検討をする。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

授業計画



[通信授業] ※面接授業で提出

教科書『美術教育資料研究』第Ⅲ章第 4 節に掲載のチゼック問答集を精読し、現在の美術教育と比較することになるが、各質問に対するチゼックの答えについて、賛同できるもの、疑問に思うものなどに分類し、その中でもとくに重要と考えるものについて、自身の考察を加えるようにする。

・『美術教育資料研究』第Ⅲ章第 4 節 チゼックスクール

[面接授業]

チゼックスクールの実践と自由画教育運動を比較するとともに、近現代の造形美術教育史を概観する。また中学校、高等学校の学習指導要領についての理解を深め、中等教育段階における授業題材開発の視点を育成する。

第 1 日 チゼックスクールの実践についての考察と日本美術教育史概説

第 2 日 自由画教育運動と中学校、高等学校学習指導要領

第 3 日 鑑賞題材の開発と研究発表

成績評価の方法

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 教職課程（中学、高校 1 種 [美術]）に登録していること。

「美術教育法Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備 考] なし

教材等

教科書：大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014 年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（出版社未定 2017 年）

※刊行され次第配付する。

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育出版 2009 年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 30 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018 年）

*スクーリング時にセット販売

- ・文部科学省検定済小学校教科書
『ずがこうさく1・2上』『ずがこうさく1・2下』『図画工作3・4上』『図画工作3・4下』
『図画工作5・6上』『図画工作5・6下』（開隆堂出版）
- ・文部科学省検定済中学校教科書
『美術1』『美術2・3』（開隆堂出版）
- ・文部科学省検定済高等学校教科書
『高校美術1』『高校美術2』『高校美術3』（日本文教出版）

その他

参考図書：大坪圭輔、三澤一実編『美術教育の動向』（武蔵野美術大学出版局 2009年）
三澤一実監修『美術教育の題材開発』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

1660 | 美術教育法 III

2 単位 (通信授業 2 単位)

大坪圭輔教授、山口正己講師

授業の概要と目標

教育活動の理念やシステムは時代の思潮によって変革され、変容していく。教育実践者はその改革が在るべき姿として正しいものといえるのか、その目指すところは未来の理想となり得るものかを絶えず検証する姿勢を持たねばならない。また造形美術教育はその性格や内容から、社会思潮を積極的に受け止め、時代に対応した教育の意義や価値を検証する必要がある。そのような研究は教育史論をはじめとして、実践論、教育哲学論、造形芸術論などを踏まえた学際的な性格を持つものである。ここでは障害者の造形美術教育にまで視野を広げ、今日的な課題を中心として、研究的姿勢を身に付けることを目的とする。

課題の概要

○ 通信授業課題 1

「身近な中学生の作品 2 点を取り上げ、造形美術教育の視点から解説すること」
実際にその中学生が描いているところを観察するほうが望ましいが、雑誌や各種教科書などに掲載されているものでもよい。また、作品は平面でも立体でもよい。
作品のコピーを添付し、作者の学年や性別、素材や技法、出典などを明示すること。

○ 通信授業課題 2

教科書『美術教育資料研究』第 IV 章及び『美術教育の題材開発』第 I 章、第 V 章の中から、今日的課題として重要な内容をひとつ選び、その内容について自分の意見や考えを述べること。
* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

教科書『美術教育資料研究』第 IV 章及び『美術教育の題材開発』第 I 章、第 V 章を精読し、自身の教育観を広げられるようにする。また、現在の教育改革についても情報を集め、考察を深めて行くようにする。

- ・『美術教育資料研究』第 IV 章 現代美術教育の諸相
- ・『美術教育の題材開発』第 I 章 美術教科の特徴と今日的課題
第 V 章 特別支援教育と造形

成績評価の方法

◎ 科目試験

上記授業内容から出題する。

履修条件及び履修年次

- [履修年次] 3～4 年次
[履修条件] 教職課程 (中学、高校 1 種 [美術]) に登録していること。
「美術教育法 I・II」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。
[備 考] なし

教材等

- 教科書：大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014 年）
三澤一実監修『美術教育の題材開発』（武蔵野美術大学出版局 2014 年）
学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 30 年度』（武蔵野美術大造形学部学通信教育課程 2018 年）
* 「美術教育法 II」のスクーリング時にセット販売
・文部科学省検定済小学校教科書
『ずがこうさく 1・2 上』『ずがこうさく 1・2 下』『図画工作 3.4 上』『図画工作 3・4 下』
『図画工作 5・6 上』『図画工作 5・6 下』（開隆堂出版）
・文部科学省検定済中学校教科書
『美術 1』『美術 2・3』（開隆堂出版）
・文部科学省検定済高等学校教科書
『高校美術 1』『高校美術 2』『高校美術 3』（日本文教出版）

その他

参考図書：大坪圭輔、三澤一実編『美術教育の動向』（武蔵野美術大学出版局 2009 年）

1670 | 美術教育法Ⅳ

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

大坪圭輔教授、山口正己講師

授業の概要と目標

「開かれた学校」のことが意味するものは、情報公開や地域、保護者、生徒などの学校経営参加だけではなく、教育活動そのものを学外にまで広げ、社会や地域の教育力を活用することにある。芸術関係教科は、いち早く学外の教育活動との連携を模索してきている。ここではまず、造形美術教育に関する学外の教育活動についての理解を深め、教科学習との理想的な関係性を考察する。また、造形美術教育の歴史を概観し、今日の造形美術教育の様相や将来のあるべき姿について研究を深めることを目的とする。

課題の概要

○通信授業課題 ※面接授業で提出

「学校外での造形美術教育の事例をひとつ取り上げ、美術教科と学校外の造形美術教育の関わりや、将来像について論述すること」

面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。

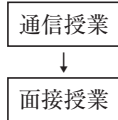
大学指定のレポート用紙を用いて返信可能な状態で持参、提出すること。

○面接授業課題

「中等教育段階の学校教育における造形美術教育の意義や将来像を、日本の美術教育史を踏まえて論述すること」

*課題については学習指導書を必ず参照すること。

授業計画



[通信授業]

教科書『美術教育資料研究』及び『美術教育の題材開発』を総覧するとともに、美術館のWEBサイトなどを閲覧し、美術館教育など学校外での美術教育の事例について情報を集めるなどして、学校教育外の造形美術教育の現状について考察する。

[面接授業]

現在の造形美術教育の状況を歴史的視点などから包括的に考察し、中学校及び高等学校学習指導要領についての理解を深め、中等教育段階での造形美術教育の意義や実際についての研究を進めることができるようにする。

第1日 学外での造形美術教育（通信課題発表を中心として）／日本の美術の重視

第2日 日本美術教育史／中学校学習指導要領についての考察（小学校、高等学校との関連など）

第3日 題材研究・題材設定、発表講評／面接授業課題

成績評価の方法

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3～4年次

[履修条件] 教職課程（別表第4適用の中学、高校1種 [美術]）に登録していること。

「美術教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備考] なし

教材等

教科書：大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

三澤一実監修『美術教育の題材開発』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（出版社未定 2017年）

※刊行され次第配付する。

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成30年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

*スクーリング時にセット販売

・文部科学省検定済小学校教科書

『ずがこうさく1・2上』『ずがこうさく1・2下』『図画工作3・4上』『図画工作3・4下』
『図画工作5・6上』『図画工作5・6下』（開隆堂出版）

・文部科学省検定済中学校教科書

『美術1』『美術2・3』（開隆堂出版）

・文部科学省検定済高等学校教科書

『高校美術1』『高校美術2』『高校美術3』（日本文教出版）

その他

参考図書：文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（出版社未定 2017年）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育出版 2009年）

大坪圭輔、三澤一実編『美術教育の動向』（武蔵野美術大学出版局 2009年）

1680 | 工芸教育法Ⅰ

2 単位（通信授業 2 単位）

大坪圭輔教授

授業の概要と目標

人としての身体機能の低下は、多方面から指摘されている。その中で「手仕事」や「もの作り」の教育についての再評価の動きが強まっている。手工教育として明治期に導入された日本の工芸教育は、スロイドシステムに大きな影響を受けている。またその教科性から、手工教育は国策とのつながりも強い。ここでは手工教育の具体的な目的や内容を明らかにすることによって、現在の工芸教育の位置付けを考察する。また、構成教育や国民学校での実践などへも視野を広げ、「手仕事」の持つ教育的な意義を考え、工芸教育の理念を構築できるようにする。

課題の概要

○通信授業課題 1

身近な幼稚園児、もしくは小学校児童の工作作品 2 点を取り上げ、工芸教育の視点から解説する。

実際にその子どもが制作しているところを観察するほうが望ましいが、雑誌や各種教科書、WEB サイトなどに掲載されているものでもよい。作品のコピーを添付し、子どもの年齢や性別、出典などを明示すること。

○通信授業課題 2

教科書『工芸の教育』第 3 章手工教育の変遷・第 2 節手工教育のはじまりとしての「思物」に示されている「フレール思物」について調べ、その意義と現代の知育玩具等とを比較考察する。

*課題については学習指導書を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

教科書『工芸の教育』「第 3 章手工教育の変遷」の中から、下に示すような手工教育、工芸教育に関する事例を取り上げて学修する。また、小学校図画工作科における子どもの発達の様相及び、工作指導について理解を深め、上級学校での工芸教育の理念や目的について考察する。

- ・『工芸の教育』「第 3 章手工教育の変遷」／思物、ネース講習、構成教育、国民学校令
- ・『小学校学習指導要領解説 図画工作編』 工作領域の学習の目的と内容
- ・『中学校学習指導要領解説 美術編』 工芸領域の学習の目的と内容
- ・『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』 工芸科の学習の目的と内容

成績評価の方法

◎科目試験

上記授業内容から出題する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 教職課程（高校 1 種 [工芸]）に登録していること。

[備考] なし

教材等

教科書：大坪圭輔『工芸の教育』（武蔵野美術大学出版局 2017 年）

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（出版社未定 2017 年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（出版社未定 2017 年）

※刊行され次第配付する。

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育出版 2009 年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 30 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018 年）

*スクーリング時にセット販売

文部科学省検定済 小学校教科書

『ずがこうさく 1・2 上』『ずがこうさく 1・2 下』『図画工作 3・4 上』『図画工作 3・4 下』

『図画工作 5・6 上』『図画工作 5・6 下』（開隆堂出版）

その他

参考書：大坪圭輔、三澤一実編『美術教育の動向』（武蔵野美術大学出版局 2009 年）

三澤一実監修『美術教育の題材開発』（武蔵野美術大学出版局 2014 年）

大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014 年）

1690 | 工芸教育法Ⅱ

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

大坪圭輔教授

授業の概要と目標

「手仕事」や「もの作り」の視点から工芸教育法の理念を考察した工芸教育法Ⅰを基に、ここでは工芸教育の歴史及びデザイン・工芸史を概観し、現代の学校教育の中での工芸教育の位置付けを明らかにしていく。また現在の学習指導要領は地域の特色ある材料を生かすことや、伝統的な工芸についての理解や鑑賞、そこからの発想などを重視している。これらを踏まえて、身近な自然や環境との出会いを基にして始まる初等教育段階の造形美術教育と、中等教育段階の工芸領域における材料体験を重視した学習とのつながりを考察し、中学校美術科工芸領域及び高等学校芸術科工芸の具体的な題材について学習する。

課題の概要

○通信授業課題 面接授業で提出

身近な伝統工芸をひとつ取り上げ解説をし、それを基にした中学校美術科工芸領域あるいは、高等学校芸術科工芸の授業題材としての展開の可能性を論述する。

面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。

所定の用紙を用い返信可能な状態で持参、提出すること。

取り上げた伝統工芸作品の写真などを添付すること。

授業題材としての展開ではその目的や方法などを具体的に想定する。

○面接授業課題

高等学校芸術科工芸Ⅰにおける表現と鑑賞の授業計画案を作成し、その評価の観点を論述する。

学習指導要領の主旨を生かし、発展的な授業計画案を考える。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

授業計画

通信授業



面接授業

[通信授業]

地域の伝統工芸について調査するとともに、『中学校学習指導要領解説美術編』、『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』を中心として、現代の学校教育における工芸授業実践の目的や内容、方法などを考察し、題材展開の実際を学習する。

- ・『中学校学習指導要領解説 美術編』 工芸領域の学習の目的と内容、指導計画の作成と内容の取り扱い
- ・『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』 工芸科の学習の目的と内容、内容の取り扱い

[面接授業]

工芸教育の意義を歴史的視点から考察し、中学校及び高等学校学習指導要領についての理解を深め、現代の中等教育における工芸の指導の実際を学習する。

第1日 伝統工芸の題材化（通信課題を中心として）／工芸学習の実際

第2日 デザイン史、工芸史、工芸教育史概説／中学美術工芸領域、高等学校学習指導要領芸術科工芸についての考察、／工芸技法の基礎理解

第3日 題材設定の作成、発表、講評

成績評価の方法

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3～4年次

[履修条件] 教職課程（高校1種 [工芸]）に登録していること。

「工芸教育法Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備考] なし

教材等

- 教科書：大坪圭輔『工芸の教育』（武蔵野美術大学出版局 2017年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（出版社未定 2017年）
※刊行され次第配付する。
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育出版 2009年）
- 学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成30年度』
（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）
- ※スクーリング時にセット販売
- ・文部科学省検定済中学校教科書
『美術1』『美術2・3』（開隆堂出版）
 - ・文部科学省検定済高等学校教科書
『工芸Ⅰ』『工芸Ⅱ』（日本文教出版）

その他

- 参考図書：大坪圭輔、三澤一実編『美術教育の動向』（武蔵野美術大学出版局 2009年）
大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014年）
三澤一実監修『美術教育の題材開発』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

1700 | 情報教育法Ⅰ

2 単位（通信授業 2 単位）

大坪圭輔教授、栗田るみ子講師、小林道夫講師

授業の概要と目標

教科「情報」は平成 12 年度からスタートした。この教科は道具としての情報通信メディアが持つ、科学的、技術的、社会的、文化的、そして人間的な内容をトータルに学んでいくものである。「情報教育法Ⅰ」では、技術の進歩の変遷や社会環境の変化などを具体的に取り上げ、文部科学省指導要領解説などを用いて進める。特に初歩的なりテラシーの教授法と生徒の応用力を高める部分についてはインターネットを活用した情報収集や情報の加工について実体験的に考えられるようにする。

課題の概要

○通信授業課題 1

コンピュータを使ってなにができるか。

マルチメディア情報の受信と発信について学ぶ。

情報化社会の変遷に伴い様々なコミュニケーションの方法が誕生しているが、中でも Web サイトは、文字、静止画、動画、音声など、多様な形態の情報を統合してインタラクティブに扱うことができ、現代の最も利用されている情報収集・発信のツールとなっている。

○通信授業課題 2

情報化が社会に及ぼす影響と課題について考える。

現在ユビキタスコンピューティングの時代といわれ、私たちの生活の中の何処にでもコンピュータが存在しているが、1950 年頃からのコンピュータの歴史を調べ、私たちの生活がどのように変化してきたか調べる。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

指定されている教材等を読み、高等学校「情報」の概要とそこに求められている課題を理解すること。『高等学校学習指導要領解説 情報編』2010 年版「社会と情報」「情報の科学」についてそれぞれの指導内容を理解する。

- 1 情報とは何か
- 2 情報機器のしくみと歴史
- 3 情報通信ネットワークの仕組みと理解
- 4 情報化社会に及ぼす影響

『キーワードで理解する最新情報リテラシー』

IT 分野のキーワードを理解し、教材として利用する場合の指導方法等を考える。

成績評価の方法

◎科目試験

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 教職課程（高校 1 種 [情報]）に登録していること。

[備考] 「情報教育法Ⅰ」を 2 年次に履修し、「情報教育法Ⅱ」を 3 年次に履修するのが望ましい。
3 年次編入学生は、ともに 3 年次に履修すること。

教材等

教科書：文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』（開隆堂出版 2010 年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 30 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018 年）

1710 | 情報教育法Ⅱ

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

大坪圭輔教授、栗田るみ子講師、小林道夫講師

授業の概要と目標

普通教科「情報」の指導を中心とした「情報教育法Ⅰ」の受講を前提に、「社会と情報」「情報の科学」の2つの教科内容の指導方法を中心に講義を行う。特に、指導の工夫を高等学校における実践例をもとに解説し、学習指導の在り方を考察する。機器やソフトウェア等の教材の活用方法を含めて行うが、コンピュータ関連の技術の進歩のなかでは特定技術に依拠した指導方法は有効とは言えず、受講者にはあくまでも教材活用の基本を獲得することを期待する。なお、面接授業においては、授業計画案についてのレポート等の課題の提出を求め、発表・講評などを行う。レポートの書式は自由とし、各自の指導したい内容をまとめる。

課題の概要

○通信授業課題

情報科の授業題材として「情報化が社会に及ぼす影響」の事例をひとつ取り上げ、その目的や方法を論述すること。

○面接授業課題

普通教科「情報」の学習指導計画案についてレポートを作成すること。

面接授業には通信授業課題を持参すること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

授業計画

通信授業



面接授業

[通信授業]

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』の普通教科「情報」の部分において、以下の内容を理解すること。

第2章 共通教科情報科の各科目

第3章 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

[面接授業]

「情報教育法Ⅰ」の学習と「情報教育法Ⅱ」の通信授業課題、および面接授業での学習指導案作成を踏まえて、高等学校における情報教育を考える。

1 高等学校「情報」における学習指導案と年間指導計画

普通教科における実践例の紹介／専門教科における実践例の紹介

2 「情報」教育の広がり

小中学校の教育との連関／総合的学習の時間や他教科との連関／社会教育との連関／情報社会と情報倫理

3 年間指導計画をつくる（レポート提出及び講評）

各自の構想する授業実践を年間指導計画に位置づけて発表すること。

成績評価の方法

面接授業課題についての講評結果などを基に評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3～4年次

[履修条件] 教職課程（高校1種 [情報]）に登録していること。

「情報教育法Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修すること。

[備考] 「情報教育法Ⅰ」を2年次に履修し、「情報教育法Ⅱ」を3年次に履修するのが望ましい。

3年次編入学生は、ともに3年次に履修すること。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

教材等

教科書：文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』（開隆堂出版 2010年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成30年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

*スクーリング時にセット販売

文部科学省検定済高等学校教科書『社会と情報』、『情報の科学』（日本文教出版）

その他

教材等の内容を補う情報がある場合は、ネットフォーラムにより提供するので、参照すること。